

# ひと

～私の  
1ページ～  
Vol.74

このコーナーでは、会員の皆さんの“ひと”にスポットを当ててご紹介させていただきます。  
今回は、神尾印房 神尾尚宏 氏のご紹介で、  
**上新石材店 上野 梓氏**にお話を伺いました。



## 会社情報

事業内容：石製品製造販売、  
墓石、創作灯り  
住所：小呂町新志1の1  
TEL：24-0434

### <経歴>

岡崎出身です。幼いころから父の仕事姿を見て育ち、父の後を継ぎたい気持ちをずっと抱いていました。高校卒業後、父と母が築き上げてきた石屋を絶やしたくないという一心で家業に入り、父のもとで男性と同じ修行をしながら、岡崎技術工学院石材加工科に3年間通いました。その後、一級石工技能士の資格を取得し、自らのブランド「AZ BRAND(アズ ブランド)」を立ち上げ、現在、石工職人になって16年目になります。

### <仕事について>

石屋というのは、お墓や灯籠など「人の心」に関わることだと思っています。石への関心が薄れてきているように感じますが、石は人の想いを表し、心を動かす魅力があります。ここ数年はお客様の飼い犬や猫を、石で彫る“メモリアルペット”の注文を多くいただきます。出来あがった作品を見て、お客様が涙を流しながらお礼を言われると、この仕事に携われることに幸せを感じます。その分責任も感じますが、お客様の想いを形にすることを大切にしながら、自身の作品で心が和んで

いただけたらとても嬉しく思います。

### <趣味について>

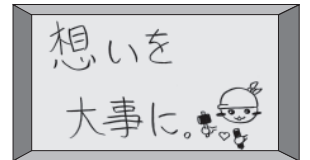
私の愛車、スポーツカーの“セブン君”です。18歳から1年間、車のためだけに貯金をし



▲愛車“セブン君”と上野氏  
て、19歳の時に中古で購入しました。現在は2代目セブン君に乗っています。形も見た目もドストライクで、愛車に乗りながら幸せを感じています。

### <いつも心にある言葉>

「想いを大事に」です。今後もお客様の想いを大切にしながら、石と正直に向き合ってお客様の想いに作品で応えていけたらと思っています。そして、より多くの方に石の魅力を知っていただき、石の伝統を継承していきたいです。



(上野 氏自筆)

## おかざきごころ ～我が店の看板むすめ～ Vol.26

[伊勢志摩サミット2016]

このコーナーでは、会員事業所の“きらり”と輝く女性をご紹介させていただきます。  
今回は、松井本和蠟燭工房 デザイナー 松井美尋(ひひろ)氏にお話を伺いました。



### <経歴>

岡崎生まれで、東京で10年間、アクセサリデザイナーとして指輪などのデザインを手がけていました。仕事を続ける中で次第に、デザイナーとして培った女性ならではの感性を、家業の和蠟燭の絵付けに活かすことで家業を手伝いたい、と思うようになりました。岡崎に戻る決意をして7年、現在は父と母が仕上げた和蠟燭の絵付けを担当しています。

### <伊勢志摩サミットの贈答品に>

当店は明治40年から100年以上、和蠟燭の製造販売をしており、昔ながらの伝統的製法で全工程を手作業で行っています。今年5月に行われた「伊勢志摩サミット2016」で、当店の和蠟燭は各国首脳の贈答品に選ばれました。愛知県からの要望で、1ヶ月で150本の和蠟燭に県花である“カキツバタ”を一本一本デザインし、日本の伝統と魅力を様々な国の方に知っていただきたいとい

う想いを込めて仕上げました。贈答品に選ばれたことをとても誇りに思うと同時に、日本の伝統を世界に向けて発信する責任を感じましたが、これを機に、和蠟燭の魅力が世界に伝わればとても嬉しく思います。

### <今後について>

和蠟燭をインテリアの一部として、見て楽しみ、灯したときは心の癒しを感じていただけるよう、常にお客様に喜んでいただけるデザインを心がけています。今後は自身のデザインを通して、これまでは、あまり縁がないと思われ



▲松井氏が絵付けした和蠟燭  
る若い方や海外の方にも和蠟燭の魅力を知っていただけるよう自らの技術を高めて、家族で伝統を守り続けていきたいと思っています。

住所：十王町2丁目33番地 TEL：21-4207